

資料1-4

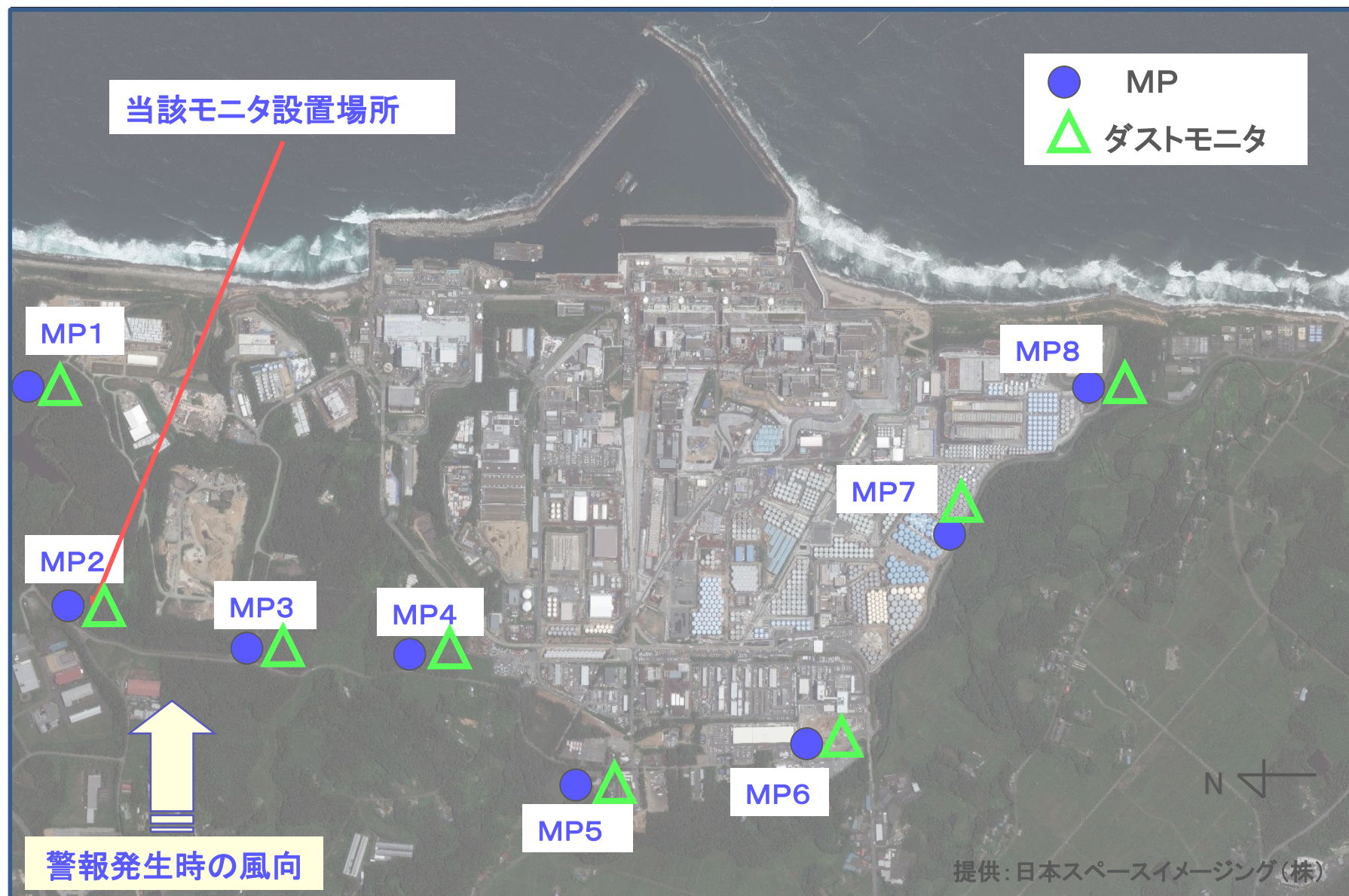
福島第一原子力発電所 敷地境界連続ダストモニタ警 報発生について(モニタリングポスト2近傍)

2016年6月9日

TEPCO

<2016年6月1日 >

- 7:54 免震重要棟集中監視室 MP(モニタリングポスト)ダストモニタ監視盤にて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報」が発生。
指示値: 1.06×10^{-5} Bq/cm³ (高警報設定値: 1.0×10^{-5} Bq/cm³)
- 8:40 当該ダストモニタの現場確認し(警報クリア)、ろ紙回収開始。
- 8:52 ろ紙回収完了、当該ダストモニタ再起動。再起動後のダスト放射能濃度は通常の範囲内で推移。
- 11:30 免震重要棟集中監視室 MPダストモニタ監視盤にて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報」が発生。指示値: 1.41×10^{-2} Bq/cm³
- 11:31頃 一度警報がクリアしたが再度発生。
- 12:16~12:36 MP2周辺のダストサンプリングを実施。
- 13:10~13:30 当該ダストモニタの現場確認し(警報クリア) 当該ダストモニタについて予備品との交換を実施。
- 13:30~ 再起動後のダスト放射能濃度は通常の範囲内で推移。



＜調査結果＞

- ダスト濃度上昇時の各プラントパラメータに異常値が見られないこと。
- 1号機, 3号機の原子炉建屋最上階(オペフロ)に設置しているダストモニタ及び構内ダストモニタに異常は見られないこと。
- 他の敷地境界ダストモニタ、モニタリングポストに異常は見られないこと。
(なお, 警報発生時の風向は「西」であった。)
- 1号機オペフロ, 3号機オペフロ及びその他構内において、ダストを舞い上げる作業も無かったこと。
- ろ紙の核種分析の結果、天然核種は確認されたが、警報に達するような濃度ではないこと。
(核種分析結果)
 - ・1回目の警報時のろ紙 → 2.5×10^{-8} Bq/cm³ (ビスマス:Bi214)
 - ・MP2近傍でのダスト採取結果 → 7.7×10^{-7} Bq/cm³ (Bi214)
採取時間: 12:16~12:36
 - ・2回目の警報時のろ紙 → 全て検出限界値未満 (Bi214のND値: 3.2×10^{-8} Bq/cm³)

これらの状況から、ダストモニタの機器異常と判断した。

なお、当該ダストモニタについては、予備のモニタと交換し、交換後は通常の変動の範囲内で推移している。

また、当該ダストモニタの点検を行い、機器異常の原因を調査する。